

公益財団法人 檜の芽会 御中

伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日	令和6年2月20日	
② 法人・団体名	特定非営利活動法人 フェアネス・ラボ		
③所在地	〒177-0042 東京都練馬区下石神井 1-2-2 セントリーフ千川 201号		
③ 責任者氏名	丸山史子	(役職名等)	代表
④ 担当者氏名	宮澤貴行	(役職名等)	事務職

【奨学活動の概要】

⑤ 助成交付決定番号	R05-015	⑥ 助成金額	40万円	⑦ 申請カテゴリー	C
⑧ 奨学活動名	学習支援活動 フェアネス スタジオ				
⑩主な実施場所	石神井公園区民交流センター 練馬区立大泉中学校セミナーハウス				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

練馬区立石神井公園区民交流センターにおいて、木曜日に、18～22時の時間帯で、継続して学習支援の活動を行いました。練馬区社会福祉協議会との連携が密になり、練馬区スクールソーシャルワーカーの見学会及びご紹介頂いた保護者への説明会を2か月に1回程度の頻度で行いました。それにより、当活動に参加する生徒の数も徐々に増え、現在大学生2名、高校生2名、中学生3名が、毎回出席しており、隔週およびランダムに出席する生徒も増えつつあります。大学生はTOEIC受験に対する対策を、高校生は大学受験及び定期テストの対策を行っています。また、中学生は英数の定期テスト対策や高校受験対策を行っています。中・高・大学生の学習支援の成果が現れており、子どもたちの励みにもなっています。

練馬区立大泉中学校セミナーハウスにおいての活動は、昨年8月から開始し、水曜日に、19時から20時半の時間帯で学習支援の活動を実施し、現在練馬区立大泉中学校の生徒及び、練馬区スクールソーシャルワーカーの方々からご紹介いただいた生徒が、毎回平均10～15名が出席し、学習支援を行っています。支援内容については、定期テスト対策及び補習等を各生徒に合わせて行っています。令和6年度高校受験における合格者も複数名おり、今後もより一層の努力をまいります。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A:人)	平均時間 (B:時間)	活動量 (A×B)	備考・補足
中学生等	240	2	480	
高校生等	96	3.5	336	
大学生等	48	3.5	168	
学習支援員等	144	3	432	
その他	0	0	0	
合計			1416	平均時間は1週間当たりの数値 延べ人数は6か月分

令和 5 年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：学習支援活動 フェアネス スタジオ

法人・団体名：特定非営利活動法人 フェアネス・ラボ

作成者 氏名：事務職 宮澤貴行

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

取り組んだ課題に関して、令和 5 年度活動報告につきまして、本法人は、様々な理由によって学習支援を必要とする子どもたちへ、本法人が行っている学習支援活動の認知を広めることを取り組みました。

まず、令和 5 年 5 月末より開始しましたセミナーハウスの活動では、練馬区立大泉中学校の校長、副校長をはじめとする職員の皆様に我々の活動目的および内容の認知を口頭及び年 4 回制作しています活動フライヤーの生徒への配布等の実施をいたしました。特に本法人が重視した認知活動につきましては、夏休みにおいて行われた、補講授業にきた生徒への支援を、NPO 法人として初めて依頼され、約 10 日間にわたり、職員の先生方と共に実施したことです。そこにおいて、補講を必要とする生徒の学習レベルおよび必要とされる支援の内容をスタッフと共に把握し、後のセミナーハウスの学習支援活動の方向性につなげる第一歩となったことが大きな実りとなりました。結果、現在予想以上のペースで各学年の支援を必要とする生徒が集まりつつあることは、本法人のメンバーによる努力の賜物でもあると、感謝しているところです。

次に、石神井公園区民交流センターにおける活動では、従来行ってきました学習支援活動の継続的实施を行い、現在、大学受験を目指している高校生への指導を中心に、中学生への学習指導・高校入試指導も視野に入れて活動を行っております。また、活動当初より連携していただいている練馬区社会福祉協議会からの様々なご依頼の中で、来年度を目指した活動として、ディスレクシアの子どもたちのための英会話指導の可能性を模索しております。これは、一つの学習支援の方向性として、子どもたちにより広い世界を知ってもらうための今後の大きな柱となると思います。本法人にとっては来年に向けての大きな課題の一つであると認識しています。

2. 実施した奨学活動の詳細

練馬区立大泉中学校セミナーハウスにおける学習支援活動

① 活動内容の詳細

活動への認知の実施

- ・教員の方々へ、本法人の活動の内容及び目的の説明・ご挨拶
- ・年 4 回を目標とするフライヤー制作および生徒への配布のお願い
- ・本法人の認知活動の一環として、夏休みに行われた補講授業の指導にての参加

練馬区立大泉中学校セミナーハウスにおける活動

- ・中学 1～3 年生の参加者について、定期テスト対策
(各生徒 10～15%の点数 UP が報告されており、活動目標も達成されつつある。
特に、本年度高校受験に合格した生徒の支援を行ったことは、メンバー一同とって大きな達成感を得ることができた。)
- ・各学年の教員とのセミナーハウス参加生徒の共有課題についての経過報告等
- ・セミナーハウスにおける学習支援に参加した各生徒の家庭との指導内容報告及び家庭における生徒との関わりについての相談等

② 参加人数

各回平均 10～15 名

③ ご協力いただいた関係者様

校長先生・副校長先生をはじめとする練馬区立大泉中学校の教職員の皆様方
練馬区立学校教育支援センター スクールソーシャルワーカーの皆様方
各ご家庭の保護者様

石神井公園区民交流センターにおける学習支援活動

① 活動内容の詳細

活動への認知の実施

- ・年4回を目標とするフライヤー制作および子どもたちへの配布
- ・スクールソーシャルワーカーの方々への2か月に1回の説明会（ご依頼の都度）

石神井公園区民交流センターにおける活動

- ・中学1～3年生および高校生の参加者について、定期テスト対策および、高校・大学受験対策

（学習することの意義を見出してくれた子どもたちの受験目標となる高等学校及び大学のレベルが上がってきたことが結果として見られ、これは、本法人の活動意義として重きを置いていたため、その結果を大変うれしく受け止めております。）

- ・社会福祉協議会からのご提案であるディスレクシアの子どもたちのより豊かな社会生活を送るための英会話学習の企画及び準備

② 参加人数 7名

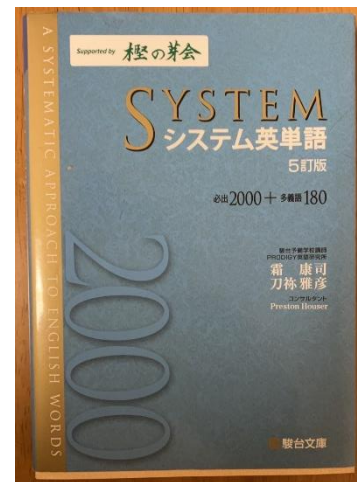
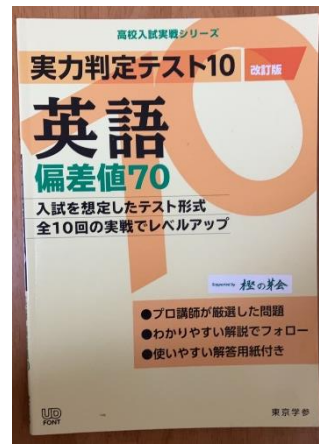
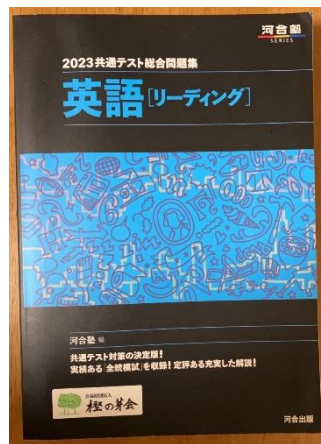
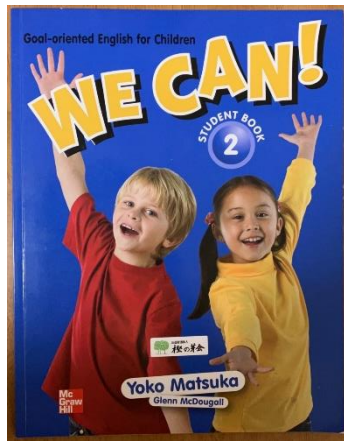
③ ご協力いただいた関係者様

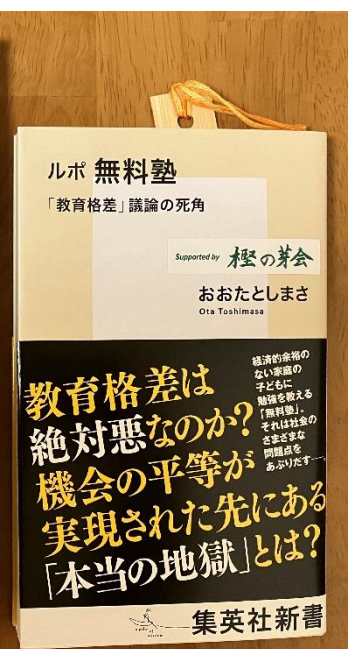
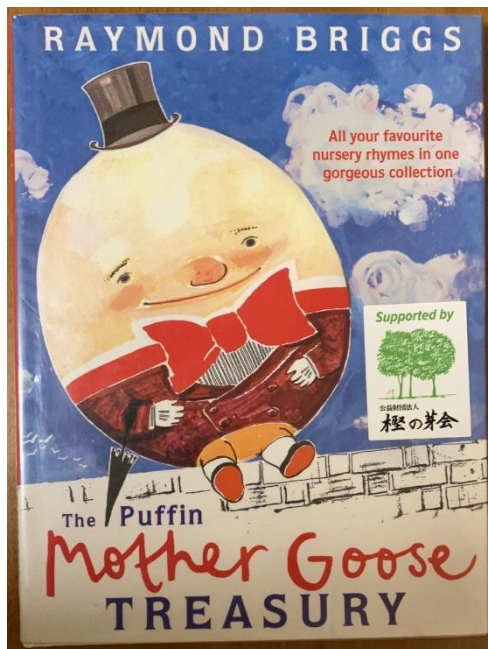
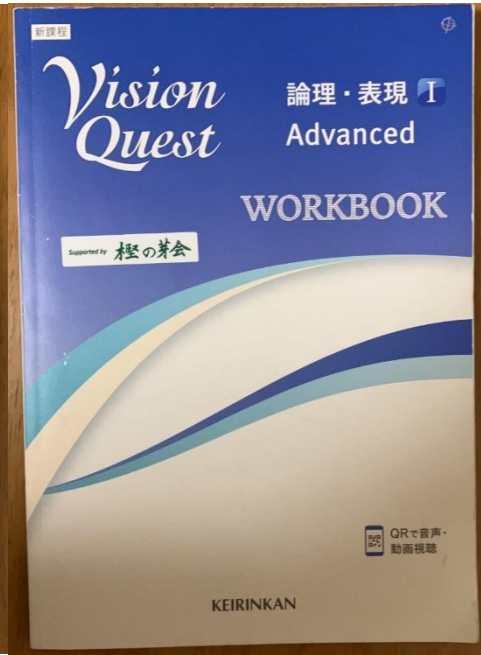
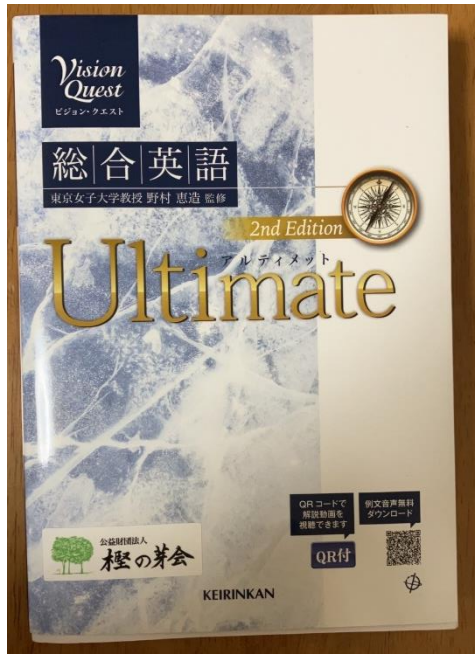
各ご家庭の保護者様
練馬区社会福祉協議会の担当者様
練馬区立学校教育支援センター スクールソーシャルワーカーの皆様方

学習支援員について

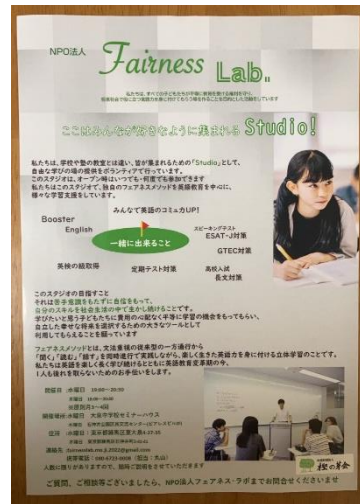
現在、現役大学生を含む6名にお手伝いいただいております。大変まじめに学習支援の活動に取り組んでもらっていますが、少しずつ増えつつある子どもたちの状況を見据えると、支援員の人数の増強は考えざるを得なくなると予想しています。また、子どもたちのそれぞれの学習課題の多様化に対応するための支援員とのコミュニケーションの強化を図る必要もあるとも考えております。現状は支援員の役割及び活動に、子どもたちを含め非常に満足しており、それが今後の本法人の活動の発展の大きな原動力となっていることは大変感謝に値するものであるため、今後とも各支援員への、団体としての支援の補強をより充実したものとしていく必要があるものと、大きな課題として受け止めております。

購入した物品





以上、助成金により購入させていただきました。また、子どもたちに配布したため、写真を撮ることができなかったワークが計56冊あります。



以上、年四回予定しておりますフライヤーのうちの3種類を助成金によって制作させていただきました。残りの1回分は4月ごろに作成させていただく予定になっております。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

昨年度檜の芽会様から助成金をいただき、本活動の推進のために使わせていただきましたことを、メンバー一同大変ありがたく感謝申し上げます。おかげさまで現在活動が少しずつではありますが、計画に沿って進めることができ、また、学習支援を受けに来てくれる子どもたちも大変喜んで、まじめに参加してくれていることをありがたく思います。その中で、私たち NPO 法人フェアネス・ラボが、大変うれしく感じられたことが、子どもたちの日々の成長と楽しそうな笑顔でした。この笑顔は、間違いなく子どもたち一人一人が自信をもって一歩歩み始めることができた証ではないかと我々は結論づけました。これは、子どもたちだけではなく、保護者や本法人メンバーにとって大きな宝となりました。

反省点といたしましては、参加してくれる子どもたちをより知るための時間を多くとってしまい、学習支援を行う時間が減ってしまっているのではないかとという点です。また、子どもたちの求めている学習支援に対して、より効果的かつ内容を伴った勉強方法の確立への努力をしていかなければならないという反省点も得ることができました。今後の課題として、これらの反省点を生かし、私たちの活動をより発展させていく必要があると実感しました。

現在、本法人が今まで想像できなかった速さで教育の世界が変化していると感じています。それは、実際に教育を受ける子どもたちにとって困難であると共に、本法人を含めた学習支援を行う団体にとっても、新たな課題を突き付けられていると認識しています。したがって、我々の元にいる子どもたちの笑顔を教育という観点から支援していくために、支援する側がどれだけ時代に沿った Restudy ができるかということこそが、支援するという本質となっているのではないかと痛感しています。私たちは、子どもたちと共に学習し、成長し続けていくことにより、子どもたちのよりよい未来に向けて、共に歩む所存です。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等 (任意)

昨年12月20日に、練馬区立大泉中学校セミナーハウスで、石神井公園区民交流センターの活動に参加している子どもたちを含めて、親睦を兼ねたクリスマス会を行いました。準備として、子どもたちが喜ぶプレゼントを考えることから始め、財源のない中での最小限の費用で贈うことを一つの目標にし、メンバーの一人が特技として書いてくれた20名の子どもたちの世界に一つしかない似顔絵を描いてプレゼントしました。この企画は、子どもたちも保護者の方々にも大変喜んでいただき、私たちが活動の中で目指す“Only one の自分”を忘れないようにという願いを込めました。この企画が、私たちが忘れられないエピソードの一つとして残っていくでしょう。